

2018年5月22日

澁谷 陽子

第6回: 船井奨学金報告書

2016年度奨学生の澁谷陽子です。スタンフォード大学の経済学部留学2年目の最後の学期を迎えています。経済学部では主に1、2年目で授業をほぼ履修し終え、3年目以降はほとんどの時間を研究またはRA/TAに費やします。今学期は必修科目である経済史の授業と、国際金融のフィールドコースを履修しています。経済史の授業は、必修だ、という理由だけで最初は履修したのですが、始まってみるとお気に入りの授業の一つになりました。私が研究しているマクロ経済学の分野では、論文は数式ばかりで100ページ以上、理解するのに一日以上かかる、ということがよくあるのですが、経済史の論文は計量手法も比較的明解なものが多く、2時間くらいで内容をきちんと理解できる論文が多い印象です。扱っているトピックも現実の経済や政治と密接に関わっているので、論文を読むことで現実をよりよく理解出来るようになった、という達成感を感じやすいです。

今学期で授業らしい授業は最後となりますが、ここにきてようやく授業と私生活、研究やRAとのバランスの取り方が分かるようになってきました。以前からきちんとバランスをとれていれば、もっと研究が進んでいただろうか、など色々な後悔はありますが、3年目以降の生活に活かしていこうと思います。スタンフォードでは、2年生終了時に一本論文を提出することが義務づけられているので、夏休みはおもにその論文の執筆に時間をかける予定です。

研究以外の生活について。博士課程にいと、自分で意識をしない限り毎日が同じような作業の繰り返しになり、時間がとても早く過ぎてしまいます。毎日をもっと楽しいものにしたい、と思い立ち、今年の新年の抱負を「毎日なにかしら新しいことをやってみる」と決めました。「新しいこと」のレベルとしては、初めてココナッツカレーを

作ってみた、とか、ジムでよく分からないマシンを使ってみた、とかその程度の低いレベルに設定していますが、それでも毎日新しいことに挑戦することで以前より毎日にハリがあります。今年は半分ほどもう終わってしまいましたが、どんどん面白いことに挑戦する年にしたいです(並行して「一年間、新しい服を一着も買わない」というチャレンジもしています)。

最後に、留学生活を支えてくださる船井財団の方々、迅速な対応をしてくださる斎藤さんや近藤さん、いつもありがとうございます。船井奨学金のおかげで、アメリカで生活費などの心配もなく研究が続けられます。研究や教育などを通して財団にお返しできるように頑張ります。